provided by Kyoto University Research Information Reposito





Title	固定繃帯二由ル筋萎縮に對スル交感神經切除ノ影響ニ就 テ
Author(s)	岩田, 清臣
Citation	日本外科宝函 (1926), 3(4): 808-812
Issue Date	1926-07-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/199987
Right	
Туре	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

固定繃帶ニ由ル筋萎縮ニ對スル交感神經切除ノ影響ニ就 テ

Ueber den Einfluss der Sympathektomie auf die Muskelatrophie nach feststellenden Verbanden.

Von Dr. K. IWATA,

(Aus der orthopäd, Klinik der Kaiserl. Universität zu Kyoto. (Prof. Dr. Hiromu Ito))

京都帝國大學醫學部整形外科學教室(指導伊藤教授

岩 田 臣

知ラント欲シ且ツ交感神經切除後ノ流血量増加ノ筋萎縮ニ對スル効果如何ヲ追求セリ。 響ヲ來スモノトセバ該筋萎縮ヲシテ促進セシムルカ、或ハ既發ノ筋萎縮ノ恢復ヲシテ却テ遲延セシムルモノナルヤ否ヤヲ 後ニ發現スル筋萎縮ニ及ボス交感神經ノ影響如何ヲ檢索セリ。卽チ果シテ、交感神經切除 於ケル長期間ノ觀察ヲ遂ゲタル多數ノ臨牀實驗ニアリテハ、カ、ル筋萎縮ニ遭遇シタルコト無カリキ。斯クノ如ク交感神 經ノ摘出へ筋組織ニ對シ不良ナル結果ヲ齎ラスモノナルカ、或ハ然ラザルヤハ遽カニ解決シ難キ事ニ屬ス。余ハ固定繃帶 出後ニ心筋ノ充血、浮腫及ビ細胞浸潤ヲ來シ時日ヲ 經過セルモノニハ筋ノ 變性ヲ招來セリト云フ。然ルニ、吾ガ敎室 後ニ同側上肢筋ノ萎縮ヲ認メ、吳、辻、波多野氏(1925)モ亦同樣ノ症例ヲ報告シ、吳、波多野、甲斐、篠崎、及ビ永野諸氏 (1925)ハ實驗的ニ之ヲ證明シ進行性筋萎縮ノ發生原因ニ言及セリ。Brandsburg 氏(1925)ハ家兎及ビ犬ノ 頸部交威神經摘 交感神經切除後ニ於ケル筋ノ組織學的變化ニ就テノ研究ハ尠シ。Harttung 氏 (1924) ハ喘息患者ノ頸部交感神經節摘出 が筋組 織 ニ對シ良好ナラザル影

標本ノ大部分ハ固定繃帶ニ因スル筋攣縮ニ關スル實驗(第二回報告)ニ際シ得タルモノナリ。 實驗動物トシテ 犬ヲ用ヒ

或ハー 的標本ヲ製作シ「エオヂン、ヘマトキシリン」二重染色或ハ「スダンⅢ」脂肪染色ヲ施シタリ。 膝關節ニ於テ强ク屈曲シ、其ノ伸展側ヲ强ク緊張セシムレバ、反對側タル屈曲側ハ著シク弛緩スルヲ以テ該位置ニ固定シ 開腹シテー側ノ腹部交感神經節狀索ヲ剔出シ又ハ總膓骨動脈ノ外膜ヲ切除シテ 定期間固定シタル後ニ前述ノ交感神經切除術ヲ行ヒ、大腿屈筋及ビ腓腸筋ノ左右同 直 チュ 兩側後肢ヲ全然同様ニ 一部位ョ 屈曲 側ノ筋ニ就キ檢索ヲ爲シ リ筋肉ヲ採リテ組織學 外轉位 ニテ

タル理由ハ固定繃帶ニ因スル筋萎縮ノ成因ニ關スル余ノ實驗(近日發表) ニ於テ明カナルガ如ク弛緩セシメタル筋ニハ速

力 = 萎縮ヲ來シ居ルヲ以テナリ。

側腹部交感神經節狀索摘出後兩側後肢ヲ固定シタルモノ。

對照側ノ筋核ハ萎縮セルモノ多シ。 出側ニ於テ橫絞ハ他側ニ比シ相常ニ明瞭ニシテ泡狀ノ長橢圓形ノ核多數ナリ 第一例、固定七日間 大腿屈筋。筋繊維ノ幅員並ニ筋核増殖ノ狀態ニ於テ認ム可キ變化ナシ。 摘 繊維ハ大小不同ニシテー少部分ニハ核ノ變形又ハ萎縮多ク、 腓肠筋。摘出側ノ方橫紋明カニシテ、核増殖少キ傾向アリ。 大腿屈筋。 横紋及ビ核ノ構造ハ切除側ニ於テヨク認メ得ラル。 其ノ排列不規則 對照側ニハ筋

對照側ハ縦紋ハ甚ダヨク認メ得ルモ横紋不明ナル部アリ。 大腿屈筋。摘出側=於テ橫紋明カニシテ泡狀核ノ核綱明瞭ナルモノ多シ。 核ノ増殖又ハ變形ハ摘出側ニ於テ稍少ク橫紋明カナリ。 摘出側ハ變形セル核動シ。 他二特記ス可キ變化ナシ。 則ニシテ濃染セルモノ多シ。 第四例、固定十日間。 核群ヲ認ムル部アリ。 大腿屈筋。摘出側!横紋ハ明瞭ニシテ對照側ハ核ノ大サ不同其ノ排列不規 腓膓筋。兩側共ニ橫紋ハ極メテ明カニ認メ得ラル。 對照側ニハ核ノ變形及

核ノ配置ニ濃淡アリ。

兩側後肢固定一側腹部交感神經節狀索ヲ摘出シタルモノ。 六日間固定後節狀索ヲ摘出シテ三日目。 腓腐筋。 横紋ハ摘出側ニ明瞭ニシ テ核ノ構造明カナルモノ多シ。

第三例、

固定十日間。

第二例、

固定七日間。

傾ケルモノ少シ。 第二卷 原原 著 岩 H

摘出側ノ橫紋ハ稍明カニシテ、筋繊維ノ排列整然、筋核ノ萎縮

大腿屈筋。

第六例、 七日間固定後節狀索ヲ摘出シテ四日目。

核ノ濃染スルモノ比較的多數ナリ。

對照側

八〇九 (第四號 七五)

腓腸筋。 筋核ハ摘出側ニ於テ方變形セルモノ少シ。

第三卷 「原 蓍 岩

田

大腿屈筋。摘出側ハ狹小ナル筋繊維比較的少ク、橫紋ヨク認メ得ラレ核ハ 小セル核比較的多シ。

大ナル泡狀又ハ橢圓形ニシテ變形セルモノ少シ。對照側ノ橫紋ハ認メ難ク縮

側總膓骨動脈外膜ヲ切除シテ兩側後肢ヲ固定シタルモノ。

員並ニ走行整頓シ核ノ變形稍少シ。 第七例、固定十日間。 大腿屈筋。 左右兩側ニ於テ殆ド差異ヲ認メザルモ切除側ニ於テ筋繊維ノ幅

兩側後肢固定後一側總膓骨動脈外膜ヲ切除シタルモノ。

腓腐筋。切除側ノ核ノ構造明カナルモノ比較的多シ。

第九例、五日間固定後外膜ヲ切除シテ四日目。 大腿屈筋。切除側ノ核ハ其ノ配置僅カニ平等ニシテ核ノ變形少々構紋ハ明

カナルが如シ。 腓脇筋。切除側ノ横納ハ稍明カニシテ核ハ増殖少キ傾向アリ。

紬 括

筋ヲ同一程度ニ弛緩セシメテ固定シタルヲ以テ同一程度ノ筋萎縮ヲ惹起ス可キニモ拘ラズ、實驗例ヲ通覽スルニ交感神

經切除ヲ行

核増殖ノ狀態輕度、變形セル核尠ク、核ノ構造明カナルモノ多シ。其ノ差異ハ腹部交感神經節狀索摘出例ニ於テ認メ易ク 總膓骨動脈外膜切除例ニテハ著明ナラズ。

牀上ノ固定繃帶後ノ筋萎縮ニ對シ交感神經ヲ切除ス可シト爲スモノニ非ズ。 唯交感神經切除ハ少クトモ 筋組織ニ不良ナ ナク、却ラ筋萎縮ヲ輕减乃至恢復セシメタルガ如キ所見ヲ得タリト雖モ其ノ差異タルヤ僅少ナリ。故ニ是ヲ以テ直チニ臨 以上ハ何レモ交感神經切除側及ビ非切除側トノ筋組織ノ比較ニシテ術側ニ於テ筋萎縮ヲ促進セリト 認メ得ラル、 モノ 筋間結締織ノ増殖ナク、「ズダンⅢ」染色ニョリ脂肪變性ヲ起シタル筋纖維ヲ見ズ。

ルモノハ對照側ニ於テ多シ。 腓脇筋。切除側ノ橫紋稍明カニシテ核ノ縮小變形少シ。 大腿屈筋。筋繊維ノ幅員ハ切除側ニ於テハ稍同一ナルモノ多シ。核縮小セ 第八例、固定十一日間

第十例、十三日間固定後外膜ヲ切除シテ七日目。

大腿筋。切除側ノ横絞ハ明カニシテ筋繊維ノ罂員略同一ニシテ核ノ變形増

殖比較的少シ。 腓腐筋。切除側ノ核増殖少ク變形モ亦比較的少シ。

ヘル術側ハ對照側ニ比シ、横紋ハ一般ニ明カニ認メ得ラレ、筋纖維ノ幅員ノ如キモ亦整然タルモノアリテ、筋

伴現象タル流血量増加(小林氏)ニヨリ罹患筋組織ノ粲養亢進ヲ來シ該筋萎縮ニ對シ好影響ヲ賦興セルモノナル可シ。是 ニ依ッテ考フルニ、交威神經切除後ノ筋萎縮ハ甚ダ疑問ニシテ殊ニ其ノ臨牀例ノ如キハ何レモ頸部交感神經節摘出後ノミ モ罹患筋組織ノ恢復ヲ促進スルコトモアラント稱スルニ止メント欲ス。而シテ上述ノ事實ハ 恐ラク 交感神經切除術ノ隨 ル條件ヲ與フルモノニハ非ザル可ク、種々ナル四肢ノ疾患ニ施シタル交感神經切除術ハ、併發セル筋萎縮ノ如キニ對シテ

Zusammenfassung.

ナルヲ以テ見レバ或ハ手術時ノ上膞神經叢ノ損傷ノ如キ副損傷ニ基因スルモノニハ非ザルカ。

etwas deutlicher und auch zuweilen die Breite der Muskelfasern gleichmässiger, was wahrscheinlich von der grossen beiderseits die Beugeseite der Hinterbeine in gleicher, entspannter Stellung ein. Mein Resultat war dabei folgendes: Am Muskel der sympathektomierten Seite waren der nichtsympathektomierten gegenüber Querstreifung und Kernstruktur Muskelatrophie nach Fixationsverbänden gerade am entspannten Muskel die Atrophie sehr schnell auftritt. Ich gipste Hundes histologisch untersucht, und zwar an entspannten, weil nach meinen experimentellen Untersuchungen über Blutzufuhr nach der Sympathektonie herrührt. Danach dürfte die Sympathektomie auf die Muskelatrophie einen habe den Einfluss der Sympathektomie auf entspannte fixierte Muskel der Beugeseite der Hinterbeine des

Thom Too are

heilenden Einfluss ausüben

- Bransburg, Experimentelle Untersuchungen über pathologisch-histologische Veränderungen der Herzmuskel nach der Sympathektomie-operation, Müch. med. W. chenschr. 1925, Nr. 42, S. 1775.
- 2 岩田,固定繃帶=因スル筋攣縮=闞スル實驗的研究. (第二回報告) 日本外科寶凾, 大正十五年, 第三巻, 第三〇一頁 Harttung, Sympathicus: esektion bei Asthma bronchiale und Muskelatrophie, Zentralbl. f. Chir. 1924, Nr. 42, S. 2300
- 5 B င္း **小林,**實驗的動脈外壁交感神經切除術(第一回報告)日本外科質國,大正十三年,第一卷,第四三四**頁**,
- 6 **吳,波多野,甲斐,篠崎,永野,**進行性筋萎縮 = 關スル實驗的並 = 病理解剖的研究. 東京醫學會雜誌. 大正十四年. 第三九卷. 第七二六頁 Kobayashi, Experimental Periarterial Sympathectomy. (Report II.) Archiv f. japan. Chir. 1925, Bd. 2, S. 133
- **辻, 波多野,** 頸部交感神經觽出人體 = 於ケル筋 [ヂストロフイー] 症ノ發生=就テ. 東京醫學會雜誌. 大正十四年. 第三九卷. 第一七八五頁

七八)

八 一 二

	第三卷
附	原
圖	蕃山
說	岩

明 田

第四圖

同上對照側。

第五圖 | 兩側後肢ヲ十三日間固定シタル後一側總勝骨動脈外膜ヲ 切除シテ七

第六圖同上對照側。

日ヲ經過シタル大腿屈筋(第十例)。

勿第	<u>B</u>	
四例)。	一側腹部	
	可交	

		附	圖	說	明			
温	一側腹部交	感神經濟	狀索	摘出後	腹部交感神經節狀索摘出後兩側後肢ヲ十日間	十日間固定	固定シタル大腿	屈
筋(第	第四例)。							
	同上對照側	•		:				

郛		
24		
例		
وروع	Œ	
0	側腹	
	拉	
	117	

日ブ經 過シタル腓勝筋、第五例)。三圖(兩側後肢ヲ六日間固定シタル後二圖(同上對照側。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第一圖
الا	一側腹部交感神經節狀索摘出後一
後一側腹部交感神經節狀索ヲ摘出シテ	喎出後兩側後肢ヲ十日間固定シタル 大腿

